

(別紙 2 - 1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 25 年 2 月 20 日

【事業所概要 (事業所記入)】

事業所番号	4270400403		
法人名	社会福祉法人 清和福社会		
事業所名	グループホーム ゆたか荘ベルホーム		
所在地	諫早市長田町 2781 番地 1		
自己評価作成日	平成 24 年 1 月 18 日	評価結果市町受理日	平成 25 年 3 月 7 日

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 URL	
--------------	--

【評価機関概要 (評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島二丁目 7217 島原商工会議所 1 階		
訪問調査日	平成 25 年 2 月 6 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点 (事業所記入)】

ホーム独自のモットー『活気・前進・笑顔溢れる毎日を』を掲げ職員と利用者双方が仲良く笑顔で寄り添う関係 (信頼関係の構築) を大切にしている。ホーム内には四季の花を生けたり皆で作った壁画を飾ったり、明るく家庭的な雰囲気を感じて頂けるよう心掛けている。またできるだけ家族との関係が途絶えぬよう毎月お便りを発行し、写真を添付する等して利用者の暮らしぶりをお伝えしている。月に一度職員会議を開き、処遇の見直しや職員同士の情報の共有・連携に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点 (評価機関記入)】

同一法人が経営する隣接のデイサービス事業所、ケアハウスも含め家族的なふれ合いを大切にされており、穏やかで笑顔溢れる事業所である。職員に看護師が配置されており協力医との情報交換もスムーズで職員同士のチームワークも良く、利用者、家族にとって安心感のあるホームである。家族と職員とのコミュニケーションの一手段として居室にホワイトボードを貼り伝言板の役目を期待する等、事業所独自の工夫も見受けられる。又、職場体験、実習生受入、幼稚園児との交流等地域資源を活用した地域に密着した活動も積極的に行われている事業所である。

1 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	<p>理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>法人の基本理念（安全・健康・尊厳・処遇・リハビリ）の基、ホーム独自の理念を掲げ生活支援を行っている。</p>	<p>法人理念に沿ったホーム独自の理念を全職員で考えられ、職員、利用者の目につく場所に掲示し「常に笑顔を大切に」との意識を持った支援活動が行われている。</p>	
2	2	<p>事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>実習生の受け入れや、年に数回、近隣の小・中学校からの施設訪問や職場体験等がありいつでもお互いが交流できる機会を大切にしている。</p>	<p>近隣小学校の職場体験、同一法人経営の保育園児の訪問等地域資源を活用した取組が行われている。又、地区の敬老会より毎年記念品を戴いている。</p>	
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>認知症キャラバンメイトとして地域包括支援センターと連携を図りながら、認知症サポーター研修を行なっている。</p>	/	/
4	3	<p>運営推進会議を活かした取組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこで意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>今年度は年6回実施。市の職員・地区民生委員・老人会代表・また入居者家族などに参加して頂き利用者の状況報告・地域の情報など意見交換の場としている。</p>	<p>会議の中で地域の情報提供を受け運動会、祭り等の行事に参加している。市の担当者との情報交換も積極的に行われている。</p>	<p>運営推進会議は事業所の活動状況を知る貴重な材料の一つと思われる。今後は利用者家族への便り等を活用した情報提供に期待したい。</p>
5	4	<p>市町との連携</p> <p>市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>市担当者へは、運営推進会議の他、役所へ出向き利用状況や今後の方向性などについて、話し合う機会をもっている。</p>	<p>市の施策のワーキング委員として地域包括支援センター、介護、医療、老人会等の代表者と共に、認知症予防の為の「連携ノート（案）」の制作に努められるなど市町との協力関係が図られている。</p>	

6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>日常での入居者の様子の変化を把握し、できるだけ行動を制限しないよう（言葉での拘束なども意識しながら）職員間での連携に努めている。</p>	<p>管理者、職員間で意識の統一を図り気付きはその都度話し合い、職員会議でも全員で事例を検討している。また、家族からの依頼には事業所の方針を説明し、見守りの対応である。</p>	
7		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>高齢者虐待防止に関する研修を受けている。入浴等を通じ身体状況を観察し、虐待を見逃さないよう努めている。</p>		
8		<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>日常生活自立支援事業や成年後見制度について研修を受けており、必要性のある方へは常に情報提供ができる体制にある。</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約の際は、パンフレット・重要事項説明書等を用いて説明し、理解して頂けるよう努めている。</p>		
10	6	<p>運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族の意見を伺う機会として今年度はアンケートの実施や行事への参加を呼びかけたり、面会時なども家族との対話に努めている。また毎月お便りを送るなどして遠方の家族の方との繋がりも大切にしている。</p>	<p>普段は家族面会時の聞き取りに心掛けているが、今年は初めての試みとして「家族アンケート」を実施されたり、ホーム夏祭りには家族の協力を得ながら取り組まれたりと家族とのコミュニケーションに努められている。</p>	
11	7	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>日頃から職員とのコミュニケーションを心掛け、職員会議等で話し合う機会を設けている。</p>	<p>職員会議は毎月1回、職員の勤務体制を見て全職員の会議開催の日程を決め、意見交換を行っている。欠席の職員には申し送りノート、業務日誌にて伝達している。</p>	<p>業務上の伝達事項は口頭が多い様なので、会議内容の周知徹底の為の回覧確認の検討をされることに期待したい。</p>

12	<p>就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>無理なく働ける体制づくりの為に夜間帯は専門の職員を設けている。給与については、キャリアパスを採用し職員の意欲向上に繋がるよう努めている。</p>		
13	<p>職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>外部研修への参加を促し、職員の知識・技術の向上に努めている。</p>		
14	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>諫早市グループホーム連絡協議会の研修会に参加している。</p>		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>事前面接にて要望やこれまでの状況等をアセスメントしスムーズにサービスが提供できるよう職員間での情報の共有に努めている。</p>		
16	<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>事業所の性質を理解してもらうとともに、家族の現状の介護負担や精神的負担を把握する事で問題意識を共有し安心して活用できるようお話ししている。</p>		
17	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>直近の生活状態を把握する事により、必要なサービスの確認を行い、生活維持への支援ができるようにしている。</p>		

18		<p>本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>本人がやりたい事・できる事を把握し、洗濯物たたみや作業活動などその方に合った役割づくりに努めている。</p>		
19		<p>本人と共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>家族・本人が共に判断する機会が持てるよう心掛け、それを支援している。</p>		
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>毎月お便りを送付したり行事参加への呼びかけ、また面会時には一緒に食事をして頂く等馴染みの方との関係維持に努めている。</p>	<p>家族の面会時に時間を取り、継続的に情報を把握し支援している。また、隣接のデイサービス事業所とも連携し馴染みの利用者との関係継続を図られており、疎遠のご家族にはホームの働きかけにより、遠方からの面会に繋がられたケースもある。</p>	
21		<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>レクリエーションや体操、季節行事などの機会を設けている。職員は利用者同士の交友関係に配慮しながら一人ひとりが楽しんで頂けるよう努めている。</p>		
22		<p>関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>退所後も家族や関係者から状況を聞いたり、必要に応じて面会に出かけるなどしている。</p>		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>日頃から利用者との対話や言葉・しぐさから思いを汲み取る努力をしている。意思の確認が困難な方でも家族から関心事を聞くなど心掛けている。</p>	<p>職員の言葉掛けに対する利用者の反応や情報（趣味など）を家族に尋ね、会話の中に織り交ぜながら思いを把握し支援を行っている。新たな情報はフェイスシートに記録されて職員間で共有している。</p>	

24		<p>これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>利用開始時や日常の中でアセスメントを行い、これまでの生活歴や生活環境等本人・家族からの聞き取りなどで情報を得るよう努めている。</p>		
25		<p>暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>一日の生活状況を把握しその方に合った関わり方を心掛けている。また心身の状況や変化等は記録し、情報の共有に努めている。</p>		
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>定期的なカンファレンスや日常の中で職員からの意見を取り入れ利用者の心身の状況やニーズ等を把握し介護計画に反映できるよう努めている。家族の了解は得ているが同席のもとでの話し合いの機会はつくれていない。</p>	<p>担当の職員が利用者の情報提供を含め、メインとなり原案を作成し、全員で再度見直し検討されて作成し家族の同意を得ている。ケアプランは利用者の許可を受け、居室に掲示し本人、職員及び家族がいつでも確認できるようにされている。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>ミーティングや職員会議・個別記録の記入にて、利用者の心身の状況や変化を職員間で共有しながら日々の処遇を行っている。</p>		
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に見えるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>通院介助や電話による日々の生活確認、家族・親類・知人との絆の充実などに努めている。</p>		
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>移動図書館の活用や当法人関連施設との交流、近隣の学校・駐在所などに法人全体で働きかけ、お年寄りの安否の見守りなどお願いしている。</p>		
30	11	<p>かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>本人・家族と話し合いながらかかりつけ医を検討している。受診は職員が対応し必要に応じて家族にも同伴して頂いている。月平均2回は協力医の往診あり医師との連携を取りながら家族への状態報告も行っている。</p>	<p>かかりつけ医受診については、基本的には看護師が受診に同行されている。協力医より定期的往診が行われており、近隣の歯科より口腔ケアも兼ねた随時の往診も行われている。</p>	

31		<p>看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>准看護師を持つ介護従事者が、定期受診や緊急時の対応など日頃からかかりつけ医との連携を取っており、適切な医療対応ができています。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>利用者の定期受診などで日頃から訪問、又は電話にて情報交換を行っており、いつでも相談ができる医療機関を確保している。</p>		
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>看取りはしていないが、主治医との連携を取る事で実施。事業所での対応能力についても家族・主治医に説明し理解を得よう努めている。</p>	<p>事業所全体の方針として看取りは行わない旨の説明を行い、家族にも同意を得ている。また利用者の状況に応じ家族、事業所、主治医間で話し合い出来る範囲での支援が行われており、職員に対し定例会議等の機会を通じ、心理面も含めた看取りに関する話し合いが行われている。</p>	
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>職員全員が普通救命講習を終了している。</p>		
35	13	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>地区消防団・近隣の学校等とホットラインを結び協力体制を作ると共に緊急時の避難訓練を行っている。(初期消火練法競技大会へも参加している。)</p>	<p>消防訓練は定期的に夜間想定も含め実施しており、県消防本部管轄のグループホーム消化訓練にも職員が参加している。緊急時は消防署、主職員、隣接学校の校長等に連絡の体制が出来ている。避難場所は出火場所により適所を確保している。</p>	

その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員が利用者の人柄をよく理解し、その方に合った声のかけ方・関わりを実践している。介護者の都合や慣れ合いの関係で個人の尊厳を忘れないよう、職員間で接遇のあり方を見直すよう努めている。	利用者を尊重しつつ親しみを込めた呼びかけが行われている。職員会議等機会あるごとに接遇に関する意見交換が行われており、個人情報も適切に管理されている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者との日常の会話や家族からの聞き取りなどで、希望や意見を聞きながら自己決定ができるように働きかけている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴や食事の時間等は決まっているが、利用者一人ひとりのペースに合わせ何事も強要しないよう柔軟に対応している。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人が好んで着ていた馴染みの衣類等を家族に準備してもらったり、生活支援の中でさりげなく衣類を整えるなど対応している。		
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	箸や湯飲み・お椀等一人ひとりが使い慣れた物を使用し、皆で顔を合わせ楽しく食事ができるよう配慮している。また片付けのできる方には手伝ってもらっている。	併設のデイサービス事業所の厨房で一括で調理され、献立は一週間毎に作成している。おやつ等は希望により職員が材料を買いに行き利用者と一緒に作られている。一人一人の持っている力を尊重し自力での食事風景である。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士が個人別に嗜好調査を行い安全でバランスのとれた食事を提供し、個々に合わせた食事形態で対応している。食事・水分摂取量も毎日記録し管理している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人さんの能力に応じて、声かけ又は介助にて食後の口腔ケアを行っている。うがいが必要な方に対しては、口腔ケア専用の拭き取りで清潔保持に努めている。		

43	16	<p>排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている</p>	<p>一人ひとりの排泄パターンを知り、残存機能を活かしながら排泄支援を行っている。また体調の変化にも柔軟に対応し代替ケアの検討も都度、行うようにしている。</p>	<p>排泄チェック表によりパターンを把握し、プライバシーを尊重した声掛け誘導が行われており、夜間は定期的見回りにより対応されている。チェック表等の記録は事業所内の適切な場所で管理されている。</p>	
44		<p>便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>排泄チェックや水分補給の実施。自然排便が少ない方に対しては主治医と相談し個々の状態に合わせた下剤の調整をしてもらっている。</p>		
45	17	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>今年度より週3回の入浴を実施していたが、勤務体制の変更により週2回に変更。時間帯についても希望に添えていないので今後の検討課題である。</p>	<p>職員2名で浴室と脱衣の支援が基本である。入浴日は利用者ごとに決まっているが拒否等状況により柔軟な対応がされている。ゆず湯等季節毎に工夫されている。</p>	
46		<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>食事や日中の活動を通して個々に合わせた生活のリズム作りを心掛けている。</p>		
47		<p>服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>介護従事者に准看護師がおり、主治医との連携のもと投薬管理をし、職員に対しても個人の病名や内服に関する情報を共有できるよう支援している。</p>		

48		<p>役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>日常生活の中で個人に合わせた役割作りや、利用者・職員が共同でできるお菓子作りや季節行事等の実施にて生活の中で楽しみを持って頂けるよう支援している。</p>		
49	18	<p>日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>敷地内への散歩や、併設施設への訪問は個別に対応し気分転換を図っている。お花見やドライブ支援等、利用者の体調を考慮しながら行事計画に取り組んでいる。</p>	<p>隣接した同一法人のデイサービスとの交流、季節により花見、ドライブ等利用者の体調に合わせて外出の機会を設けている。利用者の希望があれば随時の外出も家族の協力の基で支援されている。</p>	
50		<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>金銭管理が難しいため、家族管理とさせてもらっている。</p>		
51		<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>利用者の人的環境が希薄化しないようできるだけ本人の希望や能力に応じた支援を心掛けている。家族へ毎月お便りを発行し、本人さんの生活の様子を写真等で見て頂いている。</p>		
52	19	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>玄関・食堂には花を飾り季節感を出し、リビングはピアノ・ソファ・テレビなど団樂できる環境作りをしている。</p>	<p>毎朝、全利用者と職員が顔を合わせる時間を設け雑談、TV鑑賞等思い思いの時間を過ごされている。リビング兼食堂はゆったりとしたスペースもあり、長崎ランタンを模写した飾り付けや各テーブルには生花が生けられ、季節感を創造した居心地の良い工夫が窺える。</p>	
53		<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>リビングにはソファを置き、利用者同士で団樂する場所の確保や、一人で過ごしたい時は自室に行くなど本人さんのペースを尊重している。</p>		

54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた生活用品（寝具・衣類等）や家族の写真など、必要なものや本人が希望される物は持ち込めるようにしている。	職員により清掃、室温湿度の管理が行き届いた居室には利用者の思い出の品や写真が貼ってあり、壁には伝言板も設置されている。窓からの採光もあり明るく居心地良い居室である。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者が安全に移動できる空間づくり、環境整備に努めている。利用者の能力の把握、できる事を引き出す工夫も必要。		
アウトカム項目					
56		職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23,24,25)		1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	
57		利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18,38)		1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	
58		利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	
59		利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	
60		利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	
61		利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている。 (参考項目：30,31)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	
62		利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)		1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	
63		職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9,10,19)		1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない	

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)	1, ほぼ毎日のように
		2, 数日に1回程度ある
		3, たまに
		4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている
		2, 少しずつ増えている
		3, あまり増えていない
		4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11,12)	1, ほぼ全ての職員が
		2, 職員の2/3くらいが
		3, 職員の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3, 利用者の1/3くらいが
		4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	1, ほぼ全ての家族等が
		2, 家族等の2/3くらいが
		3, 家族等の1/3くらいが
		4, ほとんどいない